

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-8 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(1)幼稚園としての戦略	(1)-1 教育モットーの具現化	(1)-1-1 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう、一人ひとりの個性を大切に、思いや考えを尊重することで集団の中での存在意義を高められる保育を目指す。2025年度は保護者向けこれまで幼稚園で取り組む内容を周知する。2026年度に園児向けの講話の時間を定期的実施しようカリキュラムに織り込む。2027年度以降も継続する。	保護者向けこれまで幼稚園で取り組む内容を周知する	園児向けの講話の時間を定期的実施しようカリキュラムに織り込む	取り組みを継続する			保護者会総会等の機会を活用し、保護者に向けこれまで幼稚園で取り組んできた内容を周知する			
	(1)-2 単位間連携の推進	(1)-2-1 聖園幼稚園との連携 教員同士の関わりを通して南山学園の教育モットーの理解を深め合い教育内容を充実させることで質の高い幼児教育を目指すために2025年度に両園の教諭、園児交流を検討し計画する。2026年度に2025年度を振り返り内容を再検討する。2027年度以降は内容を充実させ実施する。	両園教諭、園児交流の計画案の作成	内容を再検討	計画を実施、恒例化する			保育時間や研修等を通じてより良い職場、保育活動に繋がるよう、両園教諭、園児交流の計画案を作成する			
		(1)-2-2 聖園女学院高校との連携 現在取り組んでいる家庭課授業の参加を継続する。さらに将来保育関係への就職が選択肢の一つとなるよう2025年度に夏休みのボランティアを聖園女学院高校に依頼する。2026年度応募状況により募集方法やボランティア内容を検討する。2027年度にボランティア内容を充実させ、2028年度以降も継続して実施する。	夏休みのボランティアを依頼	計画の実施 応募人数により内容を検討	内容を充実させ恒例化する			聖園女学院の協力を得て希望者の募集の仕方や活動期間等を検討し、夏休みのボランティアを依頼する			
(1)-3 ICT化の推進	(1)-3-1 パソコンやタブレット端末を導入した環境整備を進め、教員業務の軽減、保護者の利便性向上を図るために2025年度にICT化について導入できる部分を検討する。2026年度に会議録、月案、週案等の記録管理方法見直し、NASの設置を検討する。2027年度にNASを設置し、2028年度にパソコンまたはタブレット端末の導入の必要性について検討し、検討結果を踏まえ必要に応じて2029年度に予算化を検討する。	ICTについて導入できる部分を検討する	会議録、月案、週案等の記録管理方法の検討	NASの設置	パソコンまたはタブレット端末の導入の必要性の検討	前年度の検討結果を踏まえ、必要に応じて予算化を検討	会議録や個人記録等の業務軽減、保護者の利便性向上を目指し、ICTについて導入できる部分を検討する				
(2)教育・研究	(2)-1 縦割り活動の充実	(2)-1-1 他学年の園児や教員と関わることで他クラスの様子を把握し、教員同士で話し合う場や相談できる環境づくりを継続する。2025年度に縦割りの教員同士で園児一人ひとりの成長を共有し興味関心を把握する会議の時間を設定する。2026年度に共有内容を行事に活かす。2027年度にWebページの更新頻度をあげ縦割り活動の様子を掲載(行事以外の日常の様子)を掲載し、2028年度に縦割り活動を保護者へのアピールポイントとして園児獲得に繋げ、2029年度も継続する。	縦割りの教員同士で園児の興味関心を把握する会議の時間を設定	共有内容を行事等に活かす	webページの更新頻度をあげ、縦割り活動の様子を掲載(行事以外の日常の様子)	縦割りの活動を具体化し保護者へのアピールポイントとし園児獲得に繋げる	行事以外の面でも縦割りの交流を持てるよう縦割りの教員同士で園児の興味関心を把握する会議の時間を設定する				
	(2)-2 プレ保育「ひよこらんど」の充実	(2)-2-1 これまで行ってきたプレ保育をさらに園児や保育者の様子を見たり幼稚園の体験場とする他に、子育てのヒントを提供できる場となるよう工夫し、2025年度にWeb受付フォームの整備、2026年度に広報活動を再検討することで募集活動を充実させる。2028年度以降は保護者同士が苦労や喜びを分かち合える場として集えるよう計画し定着させる。2029年度に保護者向けに講師を迎え保護者アンケートの悩みに応えられるよう講師を依頼する等内容の充実を図る。	Web受付フォームの整備	広報活動を再検討	保育時間中に設定	園外の講師を依頼する等内容の充実を図る	Webページを初めて見る方が読みやすいデザインを熟慮し、Web受付フォームの整備を図る				
	(2)-3 満3歳児クラスの体制強化	(2)-3-1 満3歳児のカリキュラムをたて、独立したクラスとして保育内容を発信していくために、2025年度に広報活動を検討する。2026年度に園児の増員に向け保育室の設定と教員の増員を検討し、2027年度に満3歳児の保育室を設定する。2028年度は園児数増員に合わせて1クラスに担任と非常勤を設置し2人体制での運営を実現させる。2029年度以降に途中入園に対応した安定したクラス運営を実現し、園児の確保に繋げる。	広報活動を検討	園児増員に向け保育室の設定と教員増員を検討	保育室の設定	独立したクラスとして担任、非常勤を定着させる	途中入園に対応した安定したクラス運営	満3歳児クラスを設定する幼稚園が増えていくことを鑑み、独自のアピールポイントを含め広報活動を検討する			

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-8 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(3)施設・設備	(3)-1 スクールバス運行事業	(3)-1-1 広範囲にわたりスクールバスを運行する中で長時間乗車する園児の負担や安全性を考慮しバスルートを整備する。2025年度にバス用携帯電話をスマートフォンに変更しGPS機能をつけ保護者が安心してバスの運行状況を把握できるようにする。2026年度には気温の上昇によるバス内の環境の変化を考慮し、窓ガラスに遮熱フィルムを貼り車内の熱中症対策に取り組む。2027年度は園児獲得のためにバスルートの見直し、広範囲の運行による乗車時間による園児への負担を考慮し、運転手の確保に向けて検討する。2028年度に神奈川県の子供用シートベルト装備を進める取組みに対応できるように検討する。	バス用携帯電話をスマートフォンに変更。GPSをつけバス遅延時の保護者連絡に対応	スクールバスの窓ガラスに遮熱フィルムを貼り熱中症対策	園児獲得のためバスルートの見直し、運転手の確保に向けて検討	園児用シートベルト着用について検討		バス用携帯電話をスマートフォンに変更し、GPSによりバス遅延時の保護者連絡に対応できるようにする			
	(3)-2 通用門付近の整備	(3)-2-1 幼稚園敷地内に外部の車がUターンとして入ってくることがある。私有地であることを外部の車に知らせる必要があるため、2025年度に外部の車の出入りがないよう安全面の整備を検討する。2026年度に3カ所ある通用門を歩き用、自家用車用、スクールバス用の出入口の表示やUターン禁止の表示を設置するなど改装工事も含め対策を検討する。2027年度に2026年度検討した内容を実施し安全性を高める。	外部の車の出入りがないよう安全面の整備検討	出入口の表示やUターン禁止の表示を設置するなど改装工事も含め対策を検討	2026年度検討した内容を実施		外部の車の出入りがないよう安全面の整備を検討する				
	(3)-3 「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新	(3)-3-1 計画的な施設・設備の更新 施設設備拡充引当特定資産を活用し、「南山学園建物施設設備のライフサイクルに係るガイドライン」に基づく施設・設備の更新を行う。	建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する	検討結果を踏まえ、2027年度以降の事業計画に関して予算化する	事業計画を実施する			施設設備拡充引当特定資産を活用し、建物施設設備のライフサイクルに係るガイドラインに基づいた更新計画を立案する			
	(3)-4 照明のLED化	(3)-4-1 2026年度から2028年度にかけて、照明を順次LED化することで園児が快適に過ごせる環境を整える。		照明LED化を進めていく				—			
	(3)-5 熱中症対策	(3)-5-1 近年の気温上昇により外での活動が制限されつつある。園児が戸外で安全に伸び伸びと活動すべく熱中症を予防する設備の設置を検討する。2025年度に室内外で熱中症対策が必要な箇所を含め検討する。2026年度に改装工事等を含め予算をたて検討する。2027年度より順次対策に取り組む。	室内外で熱中症対策の必要な箇所を検討する	改装工事を含め予算をたてる	順次、対策に取り組む			室内外で熱中症対策の必要な箇所を検討する			
(4)社会・地域貢献	(4)-1 社会貢献	(4)-1-1 毎週金曜日に実施している「おにぎり献金」を継続し、幼児のうちから世界情勢に目を向け命の大切さや自分にできることを考える力を養える教育を目指す。2025年度に「おにぎり献金」の意義を見直し教員で共有した上で園児や保護者に改めて協力を求める。2026年度に日々の祈りの時間を通し社会情勢への関心を高められるよう園長による集話の時間を策定する。2027年度以降継続する。	おにぎり献金の意義を保育者や保護者に定着させる	日々の祈りの時間を通し社会情勢への関心を高められるよう資料の作成等に取り組む	園児が身近で起きている自然災害等の復興の祈りを献金に込め定着させる		習慣になっている「おにぎり献金」について、改めて保育者自身がおにぎり献金の意義を見直し、保護者に発信して定着させる				
	(4)-2 地域貢献	(4)-2-1 幼稚園園庭を解放し、未就園児や保護者に安全な環境の遊び場を提供する。2025年度により多くの方に来園していただけるよう宣伝方法や園庭開放の日程と時間帯を検討する。2026年度は園庭開放の回数を増やし多くの未就園児に来園していただく機会を増やす事で保育者や園児と一緒に遊び幼稚園の雰囲気を楽しめるよう工夫し、2027年度以降継続して実施する。	園庭開放のお知らせ方法の検討	宣伝方法や園庭開放の日程と時間帯の検討	園庭開放の回数を増やし定着させる		外掲示板の活用の他、未就園児の利用しやすさを熟慮し園庭開放のお知らせ方法を検討する				

南山学園中期計画ならびに事業計画・事業報告（2025年度）

2 個別計画

《2-8 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園》

南山学園中期計画			マイルストーン					2025年度			
大項目	小項目	具体的な達成時期・達成指標等	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	事業計画	事業報告	事業計画評価 (:1)	中期計画評価 (:1)
(5)財政計画	(5)-1 教育環境整備を目的とした寄附金の募集	(5)-1-1 寄附金 学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、必要な対応策を検討・実施する。	「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始	寄附金募集を開始					学生生徒等納付金以外の収入としての寄附金の戦略的かつ組織的な獲得を目指し、「学園としての募金体制検討ワーキンググループ」の答申を受けて必要な手続きを開始する		
	(5)-2 学納金改定	(5)-2-1 「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施する。	定員充足率や入園動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施						「基準財務シミュレーション」に基づく「南山学園財務に係る中長期目標」を実現するために、定員充足率や入園動向を考慮しつつ必要な時期に学納金改定を実施するよう検討を行う		
(6)組織運営と人材育成	(6)-1 組織運営	(6)-1-1 人員体制の強化 園児の獲得に向けて支援の必要な園児等の業務負担の軽減を図る。2025年度に人員体制について検討する。2026年度には安定した組織運営を行うために園長、副園長が教職員の声を聞き、職場の環境改善に取り組むよう計画的に面談を行う。2027年度以降も現在の離職率を維持しつつ、教員採用に向け就職フェアに参加する等、就職状況を常に把握し対応できるようにする。 積極的に教育実習生を受け入れ、保育現場の体験により保育者としての期待と意欲を高める指導を心がけ、採用に繋げる。	人員体制について検討	教員との定期的な面談を実施	面談を定着させる				人員体制について検討し、常時教員募集を行う		
		(6)-1-2 専任教員と非常勤教員の関係性強化 専任教員と非常勤教員の関係性を深め役割を分担することで支援の必要な園児に対して丁寧な対応が可能となる。そのために2025年度に定期的な園内研修・職員会議を実施する。2026年度に議題をあげ意見交換や情報共有の場を設け、2027年度以降も定期的実施する。	定期的な園内研修・職員会議を実施	議題をあげ、意見交換や情報共有の場を定着させる	定期的に実施				定期的な園内研修・職員会議を実施し、教員同士の交流や保育の質の向上を図る		
	(6)-2 人材育成	(6)-2-1 多分野にわたる園内外研修に積極的に参加し、職員専門性を向上させられるよう2025年度の研修費を見直し、研修報告の場を設け教員全体で共有する。2026年度以降も継続して実施する。	・県や市の研修への積極的参加 ・教員は夏休み中に各分野の研修に参加 ・職員会議での研修で得た情報の共有	継続して実施					各分野にわたり研修を受け、教員全体で情報を共有することで保育の質の向上を図る		

*1) 評価欄は、○（完了・緑）、△（進行中・黄）、×（未取組・赤）、-（実施対象年度以前・白）で評価する。

進捗を把握するため○（1点）、△（0.5点）、×（0点）、-（0点）で算出する。